

2017.11.29

会員の皆様、こんにちは。

参議院会館の事務所から眺める皇居の木々が、赤や黄色に変わり、秋の深まりを感じます。秋の醍醐味の一つと言えば、芸術を堪能することです。皆さんは、音楽、絵画、映画、演劇など「芸術の秋」に浸っておられますか？

今回は、芸術の秋にちなんで、先日開催された東京国際映画祭での企画をご紹介します。目覚ましい発展を遂げている技術が、映画に多く盛り込まれ、「無限の可能性を秘める コンテンツ連携」が多数企画されました。映画の手法や表現方法がどんどん進化しています。是非ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

無限の可能性を秘める コンテンツ連携

■ 東京国際映画祭開催

10月25日～11月3日の日程で第30回 東京国際映画祭（TIFF）が開催された。東京国際映画祭は、国際映画製作者連盟から公認を受けた日本で唯一の映画祭で、アジアを代表する国際映画祭でもある。日本映画はもちろんのこと、世界各国から厳選された作品が東京に集結し、世界の映画産業及び文化振興の拠点となる。今年は、第30回目の記念の年であり、彩る企画も多数開催された。

■ 企画1：様々なコンテンツの融合

目玉の一つとして、映画と、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、音楽、歌舞伎、ファッションなどのコンテンツ産業が融合した企画が開催され、国内外から集まる多くの人に日本コンテンツの魅力を発信しました。

今後、コンテンツがさらに様々な人やもの

と連携することによって、新しい可能性が広がるだろう。

■ 企画2：コンテンツ×中学生

「TIFF ティーンズ映画教室 2017」では中学生たちが映画を作り、その成果をスクリーンで発表した。

少年少女が映画製作の素晴らしさを楽しみながら体験することで、未来の映画クリエイターがここから育っていくことが期待される。



■ 企画3：コンテンツ×新技術

近年、VR/ARのゲーム・映像製作技術が著しい発展を遂げており、専用デバイスやスマホを通してそれを楽しむ人も増えている。10月27日～29日、お台場・日本科学未来館で開催されたデジタルコンテンツEXPOでは、VRやAI（人工知能）などの次世代コンテンツ技術を体験できるプログラムが実施されるなど、新技術を導入したコンテンツの楽しみ方が変化してきている。

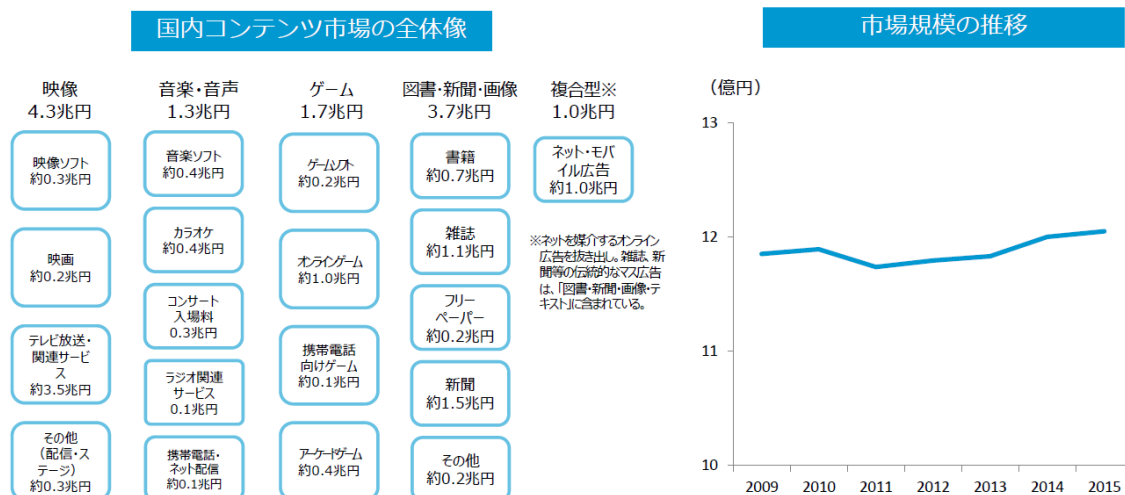
■ コンテンツ産業の更なる発展に向けて

日本のコンテンツ産業の市場規模は、世界第3位の約12兆円と大規模であるが、近年は横ばい傾向で伸び悩んでいる。

今後さらに市場を拡大させていくためには、海外への展開に加えて、コンテンツと多様な産業が連携し、新しいビジネスを生み出していくことが鍵となる。

日本のコンテンツ産業の市場規模

- 映画・アニメ・TV番組・音楽・ゲーム等の国内コンテンツ市場規模は約12兆円。
- 市場規模は、近年ほぼ横ばいで推移している。



著者：映画愛好家